

お祝いのことば

宇陀市長 金剛一智

本日の式典は、二十歳という節目の年を迎えられたことをお祝いするとともに、社会人として心身ともに成長されることを願うものです。ふるさと宇陀で育ったことを忘れないでいただきたいという思いも込めています。

まず、能登半島地震で、そして関連した飛行機事故で、お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災されて冬空の下でお困りの方々が一日も早く普通の生活に戻れるよう、我々としても、ご支援をさせていただきたいと思えます。

「二十歳のつどい」にあたり、人生の先輩として、みなさんに私からエールを送りたいと思えます。

私は毎年、この壇上から「みなさんは奇跡の存在ですよ」と呼び掛けています。21世紀になっても、世界中では戦争や災害、病気、貧困、あるいは事故など様々な理由で、二十歳の誕生日を迎えることができなかった若者がどれくらいおられたのでしょうか。みなさん、想像してみてください。

みなさん自身が「生きようとする力」はもちろんのことですが、周りの人々の献身的な助けがあったこと、さらに気づかないところで数えきれない幸運が重なったことで、みなさんはこうして二十歳を迎えることができました。

この奇跡に感謝したいと思います。

20年の間には、良いこともそうでないことも、うれしいことも悔しいこともあったと思えますが、それぞれが「無事に生きてこられたこと」を喜びたいと思えます。それだけで素晴らしいことだと思います。他の人と自分を比べるなど小さなことです。

あらためまして、本日、晴れて人生の新たな一步を踏み出されたみなさん、誠におめでとうございませう。また、保護者の皆様におかれましても、20年間、慈しみ育てられましたことに敬意を表するとともに、心からお祝いを申し上げます。

成年年齢が18歳まで引き下げられたことにより、すでに成人を迎えられたみなさんは、さまざまなことを自分ひとりで決められるようになりました。

できることが増えたという楽しみと同時に、「責任」という言葉の重みを感じておられるかもしれません。

これからの人生、不安もあり、ときに壁にぶつかること、失敗もあるかもしれませんが、この言葉だけは絶対言わないでください。

「どうせ無理」

努力しない自分を無意識に慰める、納得させる言葉です。

そこで成長が止まってしまいます。

「どうせ無理」

他の人に対しても絶対に言わないでくださいね。

少々自信が無くても、「何とかなる」とつぶやいてみてください。

ちょっとですが心が明るくなってくると思えます。他の人も幸せにする魔法の言葉です。小さくても「思い」のあるところには、道が開けてくることを私は信じています。

本日の「二十歳のつどい」は、みなさんの仲間が実行委員会を立ち上げて、準備を進めてきたものです。「素晴らしい門出」にさせていただきました。ありがとうございました。

私の話はこれで終わりますが、みなさんを育ててくれた、ふるさと宇陀の大地、空、風を どこにいてもいつも感じて、どんな時も顔を上げて歩んでください。

みなさんが、自らの力で幸せをつかんでいただくことを願い、お祝いの言葉といたします。

おめでとう!